

精神・発達障がい者の就労移行支援に関する課題と 今後の取組の方向性について

福祉保健部 福祉課

1 就労移行支援に関する地域課題について

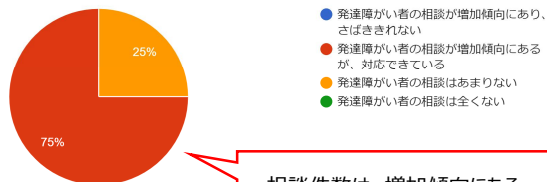
★就労移行支援サービスの利用状況（R5.6月末時点）★

事業所	定員	利用者数	身体	知的	精神(うち発達)
A	6	4	—	2	2(2)
B	10	5	—	4	1(1)
C	12	7	—	5	2(1)
市外	—	7	1	1	5(1)

精神・発達障がい者は、市外を選ぶ傾向にある

★発達障がいの就労に関するアンケート★ (対象：相談支援専門員、回答数：12)

Q1：発達障がい者の相談件数について当てはまることを選択してください。
12件の回答



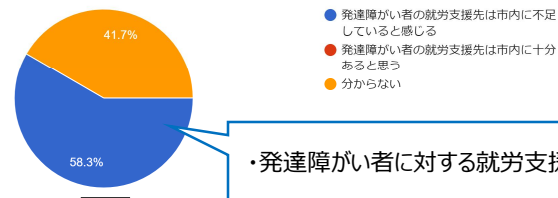
・相談件数は、増加傾向にある

～主な相談内容～

- ・就職したい
- ・転職を繰り返している
- ・訓練して再就職したい
- ・働くための準備をしたい

・発達障がい者の主な相談は、就労に関すること

Q3：発達障がい者の就労支援先について
12件の回答



・発達障がい者に対する就労支援が不足している

～市内の就労支援先が不足している理由～

- ・発達障がい者の求めている支援内容になっていない
- ・支援内容や就職までのプロセスが伝わらない
- ・特性にマッチした支援ができていない
- ・今ある資源をうまく活用できていない
- ・市外を紹介せざるを得ない

2 課題の整理

★なぜ発達障がい者は市外の事業所を選ぶのか？

市外

- ・建物の印象が良い（外観・内装）
- ・静かで集中できる空間
- ・座学や施設外就労の充実

発達障がい者ニーズに
マッチしたプログラム

当事者の心をくすぐる
戦略的広報

特性に応じた
環境配慮

三条市

- ・B型が併設されており利用者が集中できない
- ・知的障がいを想定した作業中心のプログラム
- ・B型と支援内容の差別化がされていない



課題解決のために

精神・発達障がいに対応した支援プログラムが必要

★就労に関する意見交換会（従事者によるワーキング）を開催（R5.7月、8月）

R4年度の振り返り

『就労移行の支援プロセス（※）』の作成・活用開始

⇒「支援プロセスが分かりやすい」と好評を得たが、支援プログラムへの反映に至らず、利用者の増加に結びつかなかった。

※支援の目的や段階に応じた支援内容をまとめたもの

課題認識

危機感

・このままの状況が継続すれば、市内の利用者がますます市外に流出してしまうのではないかと懸念されている。

現場の困り感

・障がい特性に応じた支援プログラムが必要と感じている。

⇒人手不足により個々に対応した支援ができない。

⇒施設の構造を変えるような大規模なハード面の修繕は困難

・発達障がい者の就労訓練ニーズの高まりに対応していかなければならない。

⇒受入実績が乏しく支援ノウハウが未確立、横のつながりが欲しい。

取組の方向性

連携

・関係機関（地元企業、就労支援団体、市）の連携強化

⇒市が地域資源に関する情報を収集・一元化し、事業所に情報提供

支援プログラムの作成

・精神・発達障がいに対応しつつ各事業所の特色を打ち出した魅力ある支援プログラムの検討

⇒事業所は、市から提供された情報を、支援プログラムに反映・活用

3 課題解決に向けた取組の方向性

課題

精神・発達障がいの特性に対応した支援プログラムの不足

R5年度の 取組（案）

支援プログラム作成
に向けた準備

視 察

- ・10月上旬：先進地視察に向けた視察ポイントの洗出し
- ・10月中旬：先進地の視察(アルファスブライト@長岡市、白山浦@新潟市中央区)

共 有

- ・10月下旬：サービス管理責任者を対象に、視察で把握した内容を情報共有
⇒R6年度に向けた取組について意見交換（できること・できないことを整理）

情報集約

- ・活用できる地域資源の情報集約・提供（サポステ、ハローワーク、商工会議所etc…）

第4期障がい者計画期間

R6年度
作成・試行

・精神・発達障がいに対応した支援プログラムの作成・試行開始

R7年度
提供開始

・精神・発達障がいに対応した支援プログラムの提供開始

R8年度
検証

・支援プログラムの検証・見直し

目指す姿

障がい特性に応じた就労移行支援の適切な提供

法定雇用率

2.5%

法定雇用率

2.7%

